

閲 覧 用

令和 7 年 4 月 2 日 (水) から
令和 7 年 5 月 1 日 (木) まで

スポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想(案)
パブリックコメントによる意見募集の結果について

令和 7 年 4 月

龍ヶ崎市健康づくり推進部 スポーツ推進課

パブリックコメントに提出された意見とその意見に対する市の考え方

計画等の名称	スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想		
意見提出期間	令和7年2月13日(木)～令和7年3月10日(月)		
意見提出者数	個人2件	意見件数	7件

No	意見の概要(原文のまま)	市の考え方
1	<p>周辺や首都圏の施設を調査が必要。どこまでクライミング施設が必要か？</p> <p>先日の跡地の住民説明会でも民間クライミングクラブがテナント入るといふ。</p> <p>互いの運営経営に影響がないようにしないと共倒れになる！</p>	<p>近隣や首都圏には、民間施設も含め、スポーツライミング施設が多数ある一方、運営が困難となるケースが見受けられるということについては、スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定審議会においても意見をいただいております。</p> <p>こうしたことを踏まえ、環境整備につきましては、施設整備を前提とするものではありませんが、あらゆる可能性を排除せず、様々な角度から検討を進めてまいります。</p>
2	<p>P71のWSにおけるアイデアは出ているが、個別は厳しい。事案あったら即座に廃止の意向示されたりされがちな為、あるいは施設管理者の教育の方針が異なったりすると厳しいかと考える。市内の園児施設が移転より建設着手している。今後移転する予定あるかは不明だが、興味ある事業者には積極的に動くべきと思う。</p> <p>プールの教育同様移動式教育した方が妥当であると考え</p>	<p>スポーツライミングのまち龍ヶ崎を推進していく上で、次世代を担う子どもたちの存在は欠かせないものと考えています。</p> <p>スポーツライミングが本市に根付いていくためには、子どもたちが体験する機会を創出していくことがその第一歩となると捉えていることから、学校と連携し、安全面を前提とした上で、小中学校の授業などへの導入実現に向けて、協議を進めてまいります。</p> <p>また、就学前の子どもたちについても、幼稚園や保育所等のニーズを把握しながら、発達段階に応じた効果的な取組を検討してまいります。</p>
3	<p>良くできた計画書だという印象です。委託されたコンサルが上手くまとめられる力をお持ちなんだらうと、感じました。</p> <p>しかし、根本的なところで、これは市民から持ち上がった、みんなで作っていこうということとなるものではないと考えてしまうものです。</p> <p>行政が計画を立ててまちづくりの音頭をとる、ということはある</p>	<p>スポーツライミングのまち龍ヶ崎の取組は、野口啓代氏、檜崎智亜選手が存在する恵まれた環境と、若者世代を中心に人気拡大しており、訴求力のあるスポーツライミングの特長を活かし、本市の喫緊の課題である若者世代の転出抑制や定住促進、さらにはこの取組を様々な分野へと波及させ、まちの魅力づくりなどにつなげていくことを目指しています。</p>

	<p>ると思いますが、このような一つのスポーツでそれを成し遂げようとする時には、もっと、下から積みあがった基礎があって可能なのではないかと思います。</p> <p>スポーツクライミングというものが如何にマイナーなものだとしても、それを育てて広げていくことに反対ではありません。しかし、もっと時間が必要だし、少なくとも市民の大多数が知って、納得されるような環境整備が必要ではないでしょうか。今回、話に聞くと国の「デジタル田園都市国家構想交付金」を活用できることから、時期、スケジュールが出て来ているようですが、そのことがより「官製版で、上からの計画」というものとなってしまうと思います。</p> <p>なので、仮にすすめるとしても、スケジュールを再考し、大多数の市民がこのことを知って、話題にし、実際に体験出来る場所や機会を、学校などを通して広げていった上で、進めるべきだと考えます。</p>	<p>ご意見のとおり、短期間で実現できるものではなく、中長期の視点で、様々な取組を通じて、多くの皆さんにご協力いただけるよう努めてまいります。</p>
4	<p>5 頁の「市民がスポーツクライミングに親しめる環境が整っており」とは言えないと思います。また、「野口氏や榎崎選手といった第一人者も在住しています」ことは事実であり、オリンピックに出場もされ、野口さんが東京オリンピックでメダルをとられたことは、市民も多くが知っているかとは思いますが、それだからと言ってそのことで龍ヶ崎市がスポーツクライミングとつながっている、というには短絡過ぎだと思います。</p>	<p>スポーツクライミングのまち龍ヶ崎を目指すにあたり、野口啓代氏や榎崎智亜選手といった世界的に活躍するアスリートが身近に存在するオンリーワンの環境は、本市にとって大きな強みであると考えています。</p> <p>その強みを活かしながら、本市が「スポーツクライミングのまち」として、市内外の多くの皆さんから認知されていくためには、これからの取組が大切になります。市民、関係団体、教育機関など多様なステークホルダーと連携・協力し、様々なアイデアをいただきながら、「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」として、市民の皆さんが誇れるまちの実現を目指してまいります。</p>

5	<p>6 頁の「スポーツクライミングは市民、市内事業者、本市に影響を与えるのみならず、市外や海外の関係者を巻き込むことで、市のにぎわい創出や産業振興に寄与します」とされていますが、これは希望的観測としてそうなる可能性もある、ことにすぎません。そうなるという根拠は示されていないばかりか、そのような思い込みで走ることは、せっかくのスポーツクライミングという未だマイナーなスポーツをじっくりと定着させることに逆効果とならないかと心配です。</p>	<p>6 頁で示しております「スポーツクライミングがまちに与える価値」は、ご意見のとおり、スポーツクライミングの持つ大きな可能性を示したもので、その実現には、中長期の視点で、段階的かつ継続的に取組を進めていく必要があると認識しています。</p> <p>64 頁でお示しているとおり、令和7年度から、スポーツクライミングの市内への浸透、機運上昇、そして、令和9年度以降の運用段階へとステップアップさせていくことで、その大きな可能性を現実のものとするためのチャレンジに継続して取り組んでまいります。</p>
6	<p>66、67 頁に、ロードマップ＝スケジュールが示されています。</p> <p>しかし、今年度(2024 年度)はまず「基本構想策定」してからの話なのでということだったにしても、2024 年 6 月の市議会に「基本構想策定審議会条例」議案が出されて初めて、市民もかろうじて見える議論が始まったところです。12 月の市長の定例記者会見でマスコミに一部発表されたものの、各紙で取り上げられるほどにはプロモーションも不十分なまま、この 3 月 15 日、16 日には子供たちの大会の開催です。これは「りゅうほう」3 月上旬号で告知されていますが、未だ、一部でしか話題となっていない現状ではないでしょうか。</p> <p>そして、さっそくに全国大会(ジャパンカップ)の市内開催、そして世界大会(ワールドカップ)の開催と打ち出されるのは、景気づけだとしても、責任ある「まちづくりの行政計画」としては、粗すぎだと考えます。</p> <p>確かに、過去にインターハイや国体を茨城県で実施した際に、龍ヶ崎市も会場の一翼を担うこととなり何とか実施したわけですが、競技会場は総合運動公園の建設を何とか間に</p>	<p>スポーツクライミングのまち龍ヶ崎のキックオフイベントとして、野口啓代氏と連携し、3月15日、16日の2日間に亘り、「AKIYO's DREAM with RYUGASAKI」を開催しました。</p> <p>大会には、全国、アジア圏から200名を超える次世代を担うクライマーに参加いただくとともに、報道機関やSNSなどでの発信により、多くの皆さんに、本市が「スポーツクライミングのまち」に向けて取り組んでいくことが伝わり、今後に向けて、大きな可能性を感じることができました。</p> <p>大規模大会の開催は、交流人口の増加やシティプロモーションにおいて、非常に有効な手段であると考えているところであり、今後も国の財政支援等を活用しながら、ジャパンカップやワールドカップの招致を目標に掲げ、実現に向けた条件の整理や機運の醸成を図ってまいります。</p> <p>また、ご意見いただきました周知期間をはじめ、大規模大会開催時の宿泊施設や公共交通の課題については、関係者や周辺自治体等とも連携・協力しながら、改善に努めてまいりたいと考えています。</p>

	<p>合わせたものの、市外からの選手、関係者、観客など宿泊施設がまったく不十分で苦労したことや、駐車場や市外からの交通環境の用意の限界などもありました。</p> <p>目標を立てて解決していくのだと言われるかもしれませんが、これらも含めた交流環境の地道な改善を通して受け入れられる条件整備をすることなく、全国大会だ世界大会だという目標を打ち出すのは適当ではないと思います。</p>	
7	<p>こういったことは最初は、下から、がむしゃらに進めようとする人が出て、それが広がっていった、その上で行政もそれに乗せてもらって、実現できるようなものだと思います。萩原市長が、本当に熱を込めて、市民に呼びかけようとしているのであれば、その市長の旗振りが見えなくては始まらないのではないのでしょうか。</p> <p>有能で、頑張る担当行政マンと、コンサルさんらとが、いかに緻密で出来の悪い「基本構想書」を作られても、それでは市民の盛り上がりを受けてまちづくりに寄与する『スポーツライミングのまち龍ヶ崎市』へとはならないと思います。せっかくのスポーツライミングというスポーツを大事にして、野口さんらの関係者の思いと存在を大事にするためにも、拙速にすぎ、「官製・上からの計画」臭すぎる本構想案について見直すべきと考えます。</p>	<p>本構想（案）は、専門家やステークホルダーが参画する審議会において、審議を諮ってまいりました。更には、市民を対象としたアンケートやワークショップ、トップクライマーなどからのヒアリングを通じて、広く意見を積み上げ策定に至ったものです。</p> <p>スポーツライミングのまち龍ヶ崎の取組は、野口啓代氏、榎崎智亜選手が存在する恵まれた環境と、若者世代を中心に人気拡大しており、訴求力のあるスポーツライミングの特長を活かし、本市の喫緊の課題である若者世代の転出抑制や定住促進、さらにはこの取組を様々な分野へと波及させ、まちの魅力づくりなどにつなげていくことを目指しており、大きな可能性を秘めた取組であると考えています。</p> <p>その実現には、中長期の視点で、段階的かつ継続的に取組を進めていく必要があり、より多くの市民の皆さんに参画いただき、ともに創り上げていくことが重要となります。</p> <p>ご意見のとおり、市民の盛り上がりを常に意識し、市民、関係団体、教育機関など多様なステークホルダーと連携・協力する中で、様々なアイデアをいただきながら「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」を推進してまいります。</p>